

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 1～25 節>

1 使徒信条に出て来る「ポンティオ・ピラトの下に苦しみを受け」

聖書の内容の大事な点を示すために作られた使徒信条。その中に出て来る人間はマリアとこの場面だけに登場するピラトのみ。マリアの重要性は分かりますが、ピラトの名が挙げられたのはなぜでしょうか？

2 ピラトは助けようとしたから悪くない？ 否。むしろそれが問題。

この個所を読むと、総督ピラトはイエス様を「無罪」と判断し(4)、何とか救おうと必死に取り組んだように思えます(4, 14-, 20, 22)。ではピラトは悪くないのでしょうか？ いいえ、そうではありません。むしろ、そうであればあるほど、祭司長たちや彼らに扇動された人々の叫び声に屈して、有罪のバラバに替えて無罪のイエス様を十字架につけた罪は重いのです。十字架につける決定権はユダヤ人の大祭司ではなく、この地の政治的権力者であった総督ピラトが握っていたからです。私たちは、使徒信条の中に彼の名を見出すことから、この世の為政者が神の子を殺した罪の大きさを覚えさせられるのです。

3 集団で犯す悪行に巻き込まれてしまうのもれっきとした私の罪！

しかし、為政者ピラトの罪だけ考えて終わってはなりません。彼をそのような罪を犯すまでに追い込んだ祭司長や、その祭司長らによって扇動されて熱狂的なまでにイエス様の死を叫び望んだ人々の罪も考えなければなりません。人間の、個人で犯す罪だけでなく集団で犯す罪です。それは他の人と共に犯した罪ですから、自分の罪としては認識しにくいものです。そして、今の時代でも同じ集団的罪は世界中で起きています。私たちはこの個所を読んだ時から、同様の罪は神様の前においては大きな罪なのだ、私の罪なのだ、と覚えなければならぬと思います。

4 イエス様の沈黙の意味は、イザヤ書 53 章から見えて来る！

主イエスは為政者たちの質問に対して黙り続けられました(9, マタイ 26:63, 27:12)。イザヤ書 53 章 7 節の苦難の僕と同じです。私たち人間の最たる罪(神様を無視し、軽んじ、殺してしまう罪)をただ耐え、黙して受けとめ、ついには殺されるまでしてその罪を一身に負って下さったのです。私たちは、私たち自身の罪の深さをこの出来事に見なければなりません。その時に、その主の御復活の意味も見えて来るからです。